

空想世界

アルテミス計画を経て人が進む先は分からないことが多く、未知の世界とも言える。未知の世界でも人は想像する。そして、その想像は脳内にとどまることなく、いずれ形をもち、星になり、そして惑星となる。

もし、何もない空間に放り出されたら、人は新しい世界をつくるだろう。それはまだ存在しない世界であり、自身の想像に従う。想像が広がり続ければ新しい世界も広がり、拡張した姿はまるで星のように、そして惑星のように見えるだろう。

未知の世界を最初に開拓するのは人間だ。この建築空間が開拓の土台となり、地球付近の宇宙空間で地球以外の新たな生活の場である人工惑星として提案する。

一つ一つのユニットの数は中心からの距離が遠くなるにつれて多くなり、その数はフィボナッチ数列に従っている。これは、想像が続く限り惑星という名の世界は広がり続けることを表している。

